

国立公園と市民をつないだ 2 年間

建元喜寿

(平成 20 年度 1 次隊 環境教育 インドネシア)

お配りした資料と変わっていますが、基本的な内容ほとんどは変わっていませんので、ご了承ください。すいませんが、座って発表させていただきます。失礼します。

まず本校の、自分の学校の場所だけちょっと説明させてください。

筑波大の附属なのですが、東京教育大があった時からの附属でして、他の国際会議の時に使ったものなので。東京と埼玉の位置がこのへんで、だいたい市ヶ谷にくるまで一時間くらいです。つくばとも 1 時間くらい離れていますが、付属です。それで、創立は 1946 年に、地域の農業高校としてできたのですが、平成 6 年から日本で最初の総合学科高校としてたちあがりました。総合学科というのはご存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、生徒が自分で学びたい科目を選択して、自分の時間割を作る高校です。だいたいこれ学校の、このへんに官舎、教員の住宅があるのですが、その 4 階からとった写真がこれで、大体こういう感じです。うちにダチョウがいまして、ふじこという名前なんですけども、生徒が卒業研究で自分で飼いたいといって、勝手に飼い始めたという。最初はいやだったんですけど、学校の先生たちも。地域のマスコットになったので、今は使ってます。いつも。

私はですねもともと岡山県の教員を 2 年やってから異動したのですが、協力隊に行こうと思ったのはですね、10 年くらい教員をやっていたのですが、学生時代にワーキングホリデーでカナダに行ったりしてですね、ずっと教員やってても、もう一回しっかりと長期で海外の経験をつんでから国際教育に携わりたいなという思いが強かったので、管理職のほうに相談して、行ってもいいということになりました。これ二本松の訓練所の様子ですけども、二本松のちょうどいい季節に訓練に入れますので、これから行かれる先生方はとてもいい時期だと思います。桜が満開でとてもきれいな時期です。

訓練中は語学の学習が朝 8 時半くらいから長い時は 5 時くらいまでやっていますので、時間割のイメージでいくと、1 限目から 6 限目までインドネシア語なので、ずっとイ イ イ イ と時間割は全部「イ」って書いてある、毎日そんな感じですけども、自分で授業の準備をしなくていいっていうことに 4 年ぶりに気がついて、毎日聞いてれば、聞いてればいいっていうか積極的に聞いてますけど、聞いてればいいので、とても充実した訓練ができたと思います。

私はインドネシアに行く前に、正直、インドネシアがどこかよくわかってなくて、バリ

島、ここバリ島なんですけども、バリ島がインドネシアだったということも知らないくらいまったく知りませんでした。それで、行くことになったので調べてみたら、島が 1 万 7 千もあって、人口が世界第 4 位で、30 年ほどしたら日本の GDP も越してしまうくらい経済発展もしてるっていう国だっという事がわかりました。

インドネシア語を勉強してみて面白かったのは、英語だと複数形が S を足したものですけど、たとえばイカ、イカってチュミっていうんです。2 匹以上だったらチュミチュミっていいます。で、無料はチュマチュマ、だいたい、英語でアバウトってというのがキラキラ、オスとか男はラキラキ。なので、こんな日本語はないんですけど、「無料のイカはだいたいオスです。」インドネシア語だと、「チュミチュミチュマチュマキラキララキラキ」っていうようなものなので、生徒もよくここにチュミチュミがいるとか、よく弁当箱の中みて、イカとかみると、地道に今、うちの学校にインドネシア語が広がっているので、英語が苦手でも、インドネシア語は好きだっという子がちょっとずつ増えてます。あと、インドネシアの特徴で、「ティダアパアバ」の精神という、英語だとノープロブレムとか大丈夫とか、問題ないって意味なんですけど、インドネシアだと、自分が悪いとか失敗して、まず日本人の感覚でいうと「ごめんなさい」っていうんですけど、インドネシアだと失敗した人が「まあいいよね」っていう。それはこっちのセリフだろう、みたいなことが満載の国なんですけど、そういう雰囲気は自分にもあって、2 年間楽しく過ごすことができました。

配属先は、学校ではなくて首都から 2 時間くらいの国立公園でした。2 時間から 8 時間と書いてあるのは渋滞がひどくてですね、首都圏から人がよく遊びに来る高原の避暑地みたいなところで、軽井沢みたいなところをイメージしてもらえればいいんですけど、ひどい時は 8 時間かかってバスにゆられて帰ったので、まあそういう場所です。ジャカルタがここで、ほんとに近くです。このあたりで活動していました。ジャワ島の西部で活動していました。それでですね、配属されてわかったんですが、行く前に家あるから大丈夫って言われて、行ってみたんですけど、まだ改装中で、水がなくて、その日まず困って、行くときは必ず JICA のボランティア調整員という人が一緒に行ってくれるので心配はないんですけど、いきなり行けとは言われないので、そのへんは大丈夫なんですけど、行ってみたら家がまだ住めないってことでお客さん用の客間にとりあえず住んどいてって言われて、と思ったら今日はあっちにとかって段ボール 4 つくらい持っていたんですけど、段ボールを毎日こうやって移動して、落ち着かない日々が最初は続きました。

本来の要請はですね、地域の学校に出前授業に行ってくれ、となんか環境に関する出前授業に行ってくれっていう要請だったんですけども、その出前授業はどうも年に数回しかやってないということがわかって、さらに僕が行った時は、もう終わっていて、今年はない、みたいな状況で、あと国立公園の本部と支部っていうのがあるんですけども、私は

本部付きだったんですけれども、その環境教育がどうも支部でやってるみたいな話しを行ってから知って、最初はとにかく私は何をしに学校を 2 年、日本の学校を休んでまでインドネシアに行ったんだと思いました。

これが自宅です。最終的には公務員の、国立公園の職員は公務員ですので、その住宅をひとつ借りて住みました。

中は、トイレがこんな感じで、インドネシアは、シャワーは浴びなくて、水がためてあって、これでパシャパシャかけるだけです。これには日本人だとつかりたいんですけど、水をためるところで浴びるだけです。ただ私がいたところは 1300m で 10 度位まで下がるので、毎日水だけだと行のようになるので、汗が出てきたりするので、僕はこっちにためて、お湯をたしてぬるま湯にして入ってました。トイレは基本的に、インドネシアではイスラム教で、左手は不浄の手としてこっちで洗ったりするので、だめなんですけど、僕右利きなので、右手で洗ってたので、僕の不浄の手は右手だったんですけど、インドネシアの人はわからないので、インドネシアの人には右手で渡してました。トイレの後でも。余計なことを言いました。

移動はアンコタっていうのに乗って、これ 20 円か 30 円で、30 分くらい乗れるので、これで移動しました。こういうところに住んで、基本的には一人で住んでいたんですけど、地域の人がかたまに誘ってくれて、基本的に手づかみで食べますので、手でとって一緒に食べる。

暮らしていてわかったんですけど、最初は何のためにインドネシア行ったのかと思ったんですけど、日本でも例えば校長先生が変わったりしたら学校の仕事が変わったりだとかいうことはよく起こりうることで、言葉も違うインドネシアではなおさらはつきりしたニーズが最初から決まってあるわけではないということに気づいて、言葉ができるのに合わせて、現地のニーズチェックを行いながら、進めていきました。

最終的にどんな仕事をしたかっていうと、地域や学校での環境教育を何とかやって、後国立公園のプロモーションをエコツーリズムや CSR 活動との連携という形でやりました。インドネシアは特にゴミがひどいんですけども、インドネシアだけでなくいろんな地域であると思いますが、よく考えると日本でも、私が小さい時は、母親にたとえば「このビンどこに捨てたらいい？」って聞いたら、「川に投げとけ」とかって言われたこともあってですね、昔は多分プラスチックの文化もなくてですね、草でできたものとか、木でできたものって投げとけば土にかえったと思うんですけど、そこに急速にプラスチック文化が入ってしまって、その変化に人間の文化の違いっていうか、自分たちの生活様式の違いが反映されなくて、プラスチックが入ってきちゃったから、しょうがないかなっていう部分は感じていました。

最初は仕事がなく困ったんですけど、行って半年くらいして、国立公園の29周年記念というなんか半端な、なんで30年じゃないんだろう、と思うんですけど、そこでまあ、ヨシと、ヨシカズって名前なのでヨシって呼ばれていたの、「ヨシ、なんかやってくれ」といわれて、じゃあ3Rっていうゴミのリユース・リサイクル、リデュースっていうゴミの展示をやりました。この時はJICAの専門家として日本の環境省からインドネシアの関係省に派遣されている方と共同してやりました。協力隊は基本的に物を買ったりする予算は、隊員支援経費ということで案件ごとにJICA事務所の方をお願いするんですけど、それを必要な場所はすばいと思うんですけど、私の場合、たとえば私が支援経費を要請して、物を買っちゃうと、「ヨシがいつでも買ってくれる」みたいに思われるのが嫌だったので、なるべく支援経費は使わずにやりました。これが地域での活動で、国立公園の職員の制服が与えられるので、職員と同じ格好をして、地域の学校に行って、分別したらゴミは資源になるよ、というような簡単な授業をしていきました。自分だけでやるとどうしても言葉が少ないので、帽子をかぶっている彼も国立公園の若手職員なんですけど、彼と一緒に僕がインドネシア語でしゃべっているのにまたそのあとでインドネシア語で言い直してくれるっていう。大丈夫かな、と思いながら、そういうコンビネーションでやっていきました。

よく国立公園には、山歩きだけで来たりするので、そういうところに合わせて、山歩きとゴミの問題をやったりということを国立公園のスタッフと考えてやりました。それで、色々仕事をしていると、色々な方から声がかかってくるようになって、JICAのさっきも言った環境省の専門家の方からの依頼で、ゴミのワークショップを首都のジャカルタでやりたいからぜひ手伝ってくれないかといわれたので、インドネシアで散らばっている協力隊員を集めて、環境問題っていうのは環境教育の職種じゃないとできないって思われがちなんですけど、たとえば青少年活動だとか、手法は同じで、ちょっと目的が違うだけで、色々協力できる場所があると思ったので私が行ってから、環境教育分科会っていうのを協力隊員で作って、その分科会で参加したものです。

公園のプロモーションの方は、最初、海外に行ったんだから日本人と関わるのはやめようと思っていて、わざと日本人社会と関わらないようにしていたんですけど、途中冷静に考えたら、自分が日本人であるっていうことを活かした方がいいなと思いました。

それから、ジャカルタに1万人くらい日本人の方がいらして、非常に日系社会が厚いということと、環境、エコツーリズムとかにお金を払ってまで参加するっていうインドネシアの人がそんなに多くないので、国立公園のプロモーションのターゲットとしては、首都圏の日本人にした方がいいかなってことで、日系社会とのつながりを大切にしました。それから企業でもCSRの場所を探しているんですけど、なかなか現場とコンタクトがとりにくいってことで、協力隊員が2年間現地に張り付いていますので、企業CSRとの連携と

いうこともやりました。

これがひとつ、シャープインドネシアが主催してやった植樹なんですけど、ここにいらっしゃる方がシャープインドネシアの社長さんなんですけど、たまたま元協力隊員の方で、1回目の植樹の時は、こういう人がいるって知らずにとにかく国立公園の他の職員が「ヨシ、ちょっと日本人が来るらしいから山へ行ってきた」って言われて、行ったんですよ。行ってみたら、そのサングラスをした社長さんが「お前協力隊員か」みたいなことを言われて、「あ、そうです」って言って、それから仲良くなって、「うち何回か植樹をするからここでやるよ」って言って、僕がいる間にもう1回、2回くらいしてくださいました。植樹の様子です。

あと現地、ジャカルタに日本人向けのフリーペーパーがあるので、その編集長さんと連携して、いろんなエコツーリズムの企画とかもやったり、自分も色んな国立公園を見たかったので休みを利用して、インドネシアのいろんな国立公園に行って、その様子をフリーペーパーに寄稿したりってこともしました。

それから、これが自分でいうのも何なんですけど、画期的な商品でして、働いているところの国立公園のマークです。前はマーク書いてなかったんですけど、たまたまうちの国立公園を水源とするミネラルウォーターを作っている会社が日系、日本トリムという会社とあちらのシナルマテスっている大きな会社の合弁会社で、そういうお水があるっていうことを知って、これは何かできないかなと考えました。

このころは、まだいつも仕事がなく、最初はほんとうに。言葉も上達しないので、ジャカルタにある日本食のスーパーをさみしく一人でぶらぶらしていました。で、その頃、商品棚に偶然自分の仕事場の国立公園を水源とするクリステルというお水あることを知りまして、これは何かできると思って、アドレスがあったので、メールをしてみて、こんなことを一緒に、環境の保護活動とか協力してもらえませんか、って企画書を持っていったら、なんと社長さんが、日本人で、私と同年で、私今37ですけど、たまたま岡山出身だったということがあって、偶然がおこりまして、インドネシア初の国立公園のマーク入り商品を開発して、今インドネシアの全土で生まれています。国立公園は、自分の国立公園のプロモーションにもなりますし、企業も企業イメージのアップにつながりますし、色んな面で **win-win** の関係を作れるような商品になったと思います。よくインドネシアの国立公園でも支援慣れしているところがあって「なんかないかな」って言われるんですけど、そういうものよりも企業もいい面もあるし国立公園にも利益があるっていうようなそういう関係を作りたかったので、ひとつのいい形になったかなとは思っています。

具体的には、最初行った、私が当初出前授業をやれと言われていて、年に1回か2回しかなかった出前授業、を予算の関係でできなかったのもあったので、企業からの支援で毎月出前授業に行けるようになったというのもありました。

それから年に1回か2回、一緒に地域の子ども達を集めて、ゴミ拾いをするようなことも継続的にやっています。これがあちらの校長先生で、企業の方で国立公園の職員という形でこういう連携をあちらで作ることができました。

出前授業ということでお水の大切さとかいうことも企業の方に直接地域の子ども達へ授業してもらいました。私はあまり授業でしゃべりませんでした。というのは、インドネシア語が最後までたいして上達しなかっていうのもあるんですが、インドネシア人の手によって、インドネシアの人に伝えてもらうっていう形がいいかなと思ったので、そうしました。彼が私と一緒によく仕事をしてくれたアデさんという人なんですけど、彼はJICAのエコツーリズムの研修で沖縄に3カ月くらい来てくれて、とても日本びいきの彼で、とても陽気で面白くて勤勉な彼で、先月くらいに彼が写真を送ってきてくれて、まだあの活動毎月やっていますよ、と報告してくれました。

こういう形で、最初は私と日本人の社長さんとの考えで始まった企画が、今ではちゃんと根付いて、インドネシア人としてやっているの、これはちょっと今うれしい報告をもらいました。そのあとも色々やりました。

配属先の仕事以外にも、国際協力イニシアティブ事業、文部科学省のお手伝いもしました。これは筑波大と向こうの学校が協定校だったので、その関係で、インドネシアでも汎用性の高い環境教育教材を開発するというので、当初3年の計画が1年になってしまったんですけど、筑波大から何回か先生方が来られたので、そのお手伝いをしました。こういう形で、左側が筑波大からの訪問団で、右側がインドネシアの先生で、そのつなぎのお手伝いもしました。

この関係があったもので、高校の教員としては、大学同士のつながりよりも生徒同士のつながりを作っていきたいということで、JICA ネットのお世話になって、これJICA インドネシア事務所ですけど、ここと地球広場にうちの生徒に行ってもらって、テレビ会議をしました。こういうような形でテレビ会議をして交流を図っています。こんな感じです。

これが3兄弟とって、校長先生で、教頭先生で、私で、なんかだんだん一緒にいると似てくるっていう。日本に帰国して9カ月くらいたち、もうすでにインドネシアが遠い昔に感じます、と書いたんですけど、昨日帰ってきたばかりなので、ちょっとまた蘇ってきています。

よく日本にいと新しいか古いかだけで判断基準にされることが最近多いんですけど、そういうことじゃなくて大切か大切じゃないかみたいなことを中心にこれから学校でもがんばっていききたいなと思っています。行って良かったなと思います。終わりそうですけども、もうちょっとあるんですね、あと3分くらい。

帰ってからのいろんなところで学校への還元を考えてやっていますが、色んな授業の中

でもやるんですけども、ひとつ、実はトヨタ財団がアジア隣人プログラムっていうプログラムを持ってまして、日本の子をインドネシアにつれてったり、インドネシアの子を日本に連れてきたりっていうのはお金がかかるので、なかなかやりにくいところなんですけど、大学からのそういう支援とか、予算が厳しいので、外部資金を取るってことで、こういうプログラムがあるよって教えてもらって、応募したら通りまして、500万いただけることになりまして、先ほども手嶋先生の話の中で共通の目標を持って何かやっていくというものがいいというお話があったんですけど、日本とインドネシアの高校生が取り組む共同プロジェクトっていうのを立ち上げました。

これは、2年間やるんですけども最初、2年の間に、それぞれの高校生が3往復します。5人ずつくらいしか行けませんけども。最初はお互いの国の理解とゴミ問題を知るってことで、日本もゴミ問題あってですね、たとえば分別して分けてもそれがどこにいつてるのかとか、ほんとにこのリサイクルはリサイクルになっているのかとか、かえってエネルギー使ってるんじゃないかとか、最近思うんですけど、駅前結構ポイ捨てしているのも増えているような気がしますし、必ずしも日本はマナーがいいとは限らないと思っています、最近。

そういうことも含めて、まずは知ってもらって次は3ヶ国語、インドネシア語と日本語と英語で、ゴミ問題に関する本を作って、最後はその本を持って地域の学校に、たとえばインドネシアの学校や地域の学校にうちの生徒とインドネシアの高校生とがいて、ゴミの授業をするというようなことを考えています。

この前行ってきたところですけど、こういうゴミの現場は、学校に行けない子どもたちもいたりして。こういうところにも日本とインドネシアの高校生で行って、自分たちで将来何ができるかなってことを考えたりしてもらおうと思っています。比較的インターネットがインドネシアでも使えるもので、22日にスカイプをつないでやりました。プロジェクトを使って見せました。

やってわかったんですけど、これうちの生徒なんです。これがインドネシアの生徒で顔が似てるっていう非常に盛り上がって、趣味がサッカーで、今度行ったらサッカーしようっていう非常に盛り上がって、彼が実は英語がとても苦手で、大っきらいだと言ってたのに、インドネシア語を今一生懸命勉強し始めているので、目的をもつと子どもががらりと変わるっていう瞬間に出会えたので、これからの高校生の成長をすごく楽しみにしています。

ということでばたばたとした25分でしたが、これで終わります。どうもありがとうございました。

【質疑応答】

質問：私は 23 年度にインドネシアに派遣です。環境教育で前に行った人はいなかったのかというのが 1 点と、引き継ぎというかもしそういうのがあるんでしたら、もうちょっと苦労されなかったのではないかと思ったんですが。

先生：私は三代目でした。初代と二代目とあって、入ったんですけど、私のいる間に所長が、国立公園の所長が変わってまして、組織が変わってるんです。人も変わってるので、所長ごとに政策ががらっと変わってしまったので、三代目ではあったんですけど、もうまた、初代でここまであげて、またちょっと間があいて二代目があげて、こんな感じで。

引き継ぎは JICA で正式にはないので、報告書で、それ読むしかないんですけど、二代目の人と私が直接会うっということは、公式には設定されません。私は事前に連絡が取れたので、国内で一回と、前任の方がジュニア専門家になられて、その関係でインドネシアに来られたので、派遣中も 1 回、インドネシアであいました。相談には乗っていただきました。

私の後任が決まっています、1 月 6 日に出発されるんですけど、独自に会ってやってきたことはすべて引き継いで、国立公園での活動もトヨタ財団のプロジェクトをやるので、一緒に連携しながらやっていこうと言っています。彼も環境教育です。

質問：高校生で、今度から大学生になります。現地の子どもたちは環境教育を通して、どういう反応をしているのか興味があるんですが

先生：環境だけじゃなくて、結構インドネシアの人たちは日本のこと大好きで、なにかするととっても喜んでくれます。

僕はどうしてもポイ捨てだけはやめてほしかったので、日本語でポイ捨て禁止って、習字やってたので毛筆で禁止って書いて、覚えろって、子ども達にいったら、誰かが捨てたらポイ捨て禁止って言えって、言ったら、みんなでポイ捨て禁止、ポイ捨て禁止って言って、それが広まった。そうやって地道にやっていったら効果があるかな、って結構いい反応してくれたので楽しかったです。ただ言った後に 1 時間くらいしたらゴミを捨てているので、言い続けないと。継続が必要だな、と思いました。